

## タブマネってこんな人

### ① 認定 NPO 法人地球市民の会/サワディー佐賀 山路健造

27 期・山路です。地元の立命館アジア太平洋大学時代、アイデンティティに悩む在日コリアンの友人との対話などから、「国籍や民族を超えて、人をヒトとして好きになれる社会をつくりたい」という人生の理念を掲げ、活動しています。

大学卒業後は新聞記者となり、国際交流や国際協力の現場を多く取材しました。しかし、30 歳を前に疑問が沸きます。「自分はプレーヤーとして現場にかかわりたいのではないか？」。その思いから退職して、青年海外協力隊に応募。フィリピンに 2 年間派遣されました。



フィリピンでの活動を助けてくれたのは、ホストファミリーや友人たち。マニラに上がれば、協力隊仲間や県人会、校友会の皆さんと久しぶりの日本語を楽しむ。海外で「ガイコクジン」を経験したからこそ、今の仕事につながっています。

帰国後は、佐賀市の認定 NPO 法人地球市民の会でタイ事業を担当。30 年にわたるタイでの国際協力のご縁から、佐賀に住むタイ人やタイが好きで「サワディー佐賀」をつくりました。タイ人メンバーと、タイ料理教室やタイフェスティバル、タイ人観光客の多い祐徳稲荷神社での通訳ガイドボランティアなどを楽しんでいます。近年力を入れるのが、災害やコロナ情報のタイ語発信。翻訳チームをつくり、翻訳対応をしています。これらの活動が認められ、サワディー佐賀は令和 2 年度総務省ふるさとづくり大賞を受賞できました。そのほか、地球市民の会では、タイ人が日本語と介護技術を身に着ける留学事業も担当しています。



現在、タイ語と同じように災害時多言語支援センターの翻訳対象ではないミャンマーとスリランカのグループ設立も支援。さらに、このような少数言語を母語とする方が、多言語情報を広域で共有できるプラットフォームができないか、構想をしているところです。

佐賀の先輩たちの活躍を間近に見て憧れ、飛び込んだタブマネの世界。本当に知識も人の繋がりも広がり、感謝しています。これからもどうぞよろしくお願いします！

## ② クレア・ロンドン事務所 金子万利奈

タブマネ 27 期、クリア・ロンドン事務所の金子万利奈と申します。タブマネ同期の山路さんの後に続き、自己紹介させていただきます。

クリアの職員は自治体からの派遣者が多くを占めています。私も岡山市役所で働いていたある日、クリアへの派遣のお話をいただき、3 年間クリアで仕事をするようになりました。



1 年目は東京本部での勤務で、多文化共生課へ配属されました。正直なところ、それまで外国人住民のことについて深く考えたことがなかった私にとっては、全く未知の世界でしたが、現場で活躍されている様々な方と直接お話しする機会に恵まれ、少しずつ多文化共生への理解を深めていきました。

そんな中で参加したのが、多文化共生マネージャー認定研修である、JIAM での多文化共生の実践コースでした。

多文化共生の重要性への理解が高まる中、50 名近くが参加した 3 日間×2 回の研修では、多くの知識を得られたのはもちろんのこと、講師の方や同期と夜遅くまで楽しく真剣に交流を深めることができました。

また、同期でなくても、「私もタブマネです！」という一言で、全国で多文化共生に携わる多くの方との距離がグッと縮まるのを感じるのも、タブマネの醍醐味だと感じています。現在住んでいるロンドンは本当に多様性にあふれた都市で、1 年間学んだ多文化共生というレンズを通してみることで、日々新たな発見をしています。

1 年後、岡山市役所へ戻った後も、多文化マインドとタブマネネットワークを生かしていきたいと思っています。

### ③ 川西町国際交流協会 事務局長 リチャード・チン

山形県の南部の米沢市にある山形大学に留学のため、日本を訪れました。大学を卒業後、東京都にある企業に勤務していましたが、子どもが生まれたことを機に大学のあった米沢市の隣町である川西町に移り住みました。多文化共生マネージャー養成講座の第28期生です。

タブマネの講座を受講したきっかけは、約10年間に亘り行ってきた国際交流事業を通して、地域住民と外国人それぞれについて異文化への理解や認知が必要であると感じたからです。異なる文化を持つ人達が一緒に生活することは容易ではなく、互いを理解し、受け入れ合う必要があります。



在住外国人の多くは独自のコミュニティを持っており、地域とあまり交流を持っていません。日本で生活していてもあたかも自国で暮らしているかのようにふるまい、誤解やトラブルを生むこともあります。このようなトラブルの多くが異文化への理解不足、誤解によるものです。このような問題を減らすため、互いの文化への理解や意思疎通がとても重要になってきていると感じています。まさに「多文化共生」の必要性を感じています



また、約10年間の活動を通じて、特に小中高生などを対象とした交流が特に重要ではないかと感じているところです。柔軟性を持ち、なおかつ今後の「多文化共生」の主役となる若い世代への働きかけを今後も勧めて行きたいと思ってもいます。

#### ④ 外国人患者対応力向上委員会（CCCIPS） 池浦恵

私は、普段薬局に勤務する薬剤師、薬剤師タブマネです。薬局勤務の傍ら多文化共生を考える会ハート51（山梨県）の活動に参加し、多くの外国人生活問題に触れ、対応が早急に必要であると実感、現状を何とかしたいと思ったのが多文化共生を目指したきっかけです。対応方法を学ぶために、タブマネ研修を受けたほうが良いと先輩タブマネからアドバイスがあり研修へ参加。そして最高の同期達に出会い、愛と丁寧の合言葉のもと、今でもお互いに助け合っています。

私は数年前に友人薬剤師と一緒に外国人患者対応力向上委員会という任意団体を設立。全国の薬剤師向けに外国人患者対応に役立つ情報発信や研修を実施しています。

私の強みは二つの専門領域（多文化共生と薬剤師業界）を同時に見ることができ、業界の内側から情報発信等ができること。新型コロナのような感染症問題では、絶対的情報弱者になる外国人住民のケアは必須。当委員会のサイトには点在する新型コロナ関連多言語翻訳情報を予防・受診等の段階に分けてまとめ、かつ言語対応表も作成して公開しています。

<https://cccips.com/archives/961>

コロナについては行政職のタブマネから個別に相談を受けることもあります。もちろんそういう相談もウェルカムです。タブマネではない方も迷った時は気軽に上記のサイトから相談をどうぞ。私の最終目標は医療における多文化共生の実現。そのために自分のできることを一つ一つ積み上げていきます。外国人住民の笑顔と健康のために。

## ⑤ 公益財団法人横浜市国際交流協会 藤井美香



社会人になってから参加した国際交流活動がきっかけで、この世界で働くことに興味をもち、協会の職員になりました。協会では、国際学生会館で施設運営や交流事業を通じて留学生に日々接したのち、多文化共生業務に携わるようになり、今に至ります。

タブマネ研修受講は 2011 年度です（13 期）。職場の先輩から話を聞き、多文化共生を幅広く学ぶこと、また、全国の仲間との新たな出会いに期待して参加しました。当時は、東日本大震災直後の災害時支援の模索や、日本語学習支援事業のたちあげに試行錯誤中だったので、必要なタイミングで出会えた研修でした。自身の多文化共生への取組が、タブマネ前後で分けられると思えるほどの体験で、情報、人的ネットワーク、ものの捉え方や実務の進め方など、先への広がりつつながりのきっかけをいただきました。

現在の主な業務は、地域日本語教育や子ども支援、国際交流拠点の連携支援などを通じた多文化共生の推進です。タブマネと名乗って活動することはまれですが、タブマネであることはお守りになっています。他地域の人や情報、取組例に助けられることも多く、みなさん前向きな開拓者なので、その活躍に元気がもらえます。事業企画や研修など様々な業務で、気がつくタブマネの皆さんとの関わりがあります。



外国人住民が増え、多領域の人や組織との協働の機会も増えています。多文化共生の視点をお伝えできるよう、これからも学び続けたいと思います。

<公益財団法人横浜市国際交流協会>

<https://www.yokeweb.com/>

<よこはま日本語学習支援センター>

<https://yokohama-nihongo.com/>

## ⑥ 神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ） 佐藤幸雄

神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）に勤務する、青年海外協力協会（JOCA）の佐藤です。

私は、2018年よりあーすぷらざに勤務し、最初に多文化共生課、今は総務課にて多文化共生業務に携わっています（タブマネ研修受講は2019年度「第27期」）。



それ以前は、1986年より青年海外協力隊員としてガーナに派遣されて以来、現地調整員や派遣前訓練のスタッフとして30年ほど勤めておりました。その中で、学び体験したことは日本語や日本が通じない異文化を如何に理解し、その中に自分の身を置き、そこで仕事をして成果を出すためには、最初に何が必要か、何が重要かを考え、隊員たちと途上国で現地の方々のために何か役立つ事ができないか考え実施してきた日々でした。

今は、神奈川県の実業「あーすフェスタ」に取り組んでいます。これは2000年からあーすぷらざで毎年実施されてきた企画で、テーマは「みんなで育てる多文化共生」です。

今年は10月17日（日）オンライン開催予定です。

- ・あーすフェスタ 2021 特設サイト <https://ef20211017.jimdofree.com>
- ・公式 HP <https://www.earthplaza.jp/earthfesta/>

過去のあーすフェスタ報告書から、ぜひ「フォーラムの記録」をご覧ください。2007年の報告書まで見る事が出来ます。貴重な話し合いの記録です。



と強く思いました。

パラリンピックでは、世界中から集った何らかの障害を持つ方々の活躍を見ることが出来ました。彼らの国での生活を想像し、相手の身になって考え、他の人を思いやる心を忘れず、今後も多文化共生社会の実現に今後も寄与して行きたい

神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）：<http://www.earthplaza.jp/>

公益社団法人青年海外協力協会：<http://www.joca.or.jp/>

## ⑦ 「奥州市国際交流協会」事務局長 渡部千春



2006年、5市町村が合併し、国際交流協会も合併して現奥州市国際交流協会となりました。私は協会業務と共に岩手県立農業大学で英語、国際農業等の授業を担当する講師をしています。また、家業がアパレル関連の会社で、外国人就労にも関わっていました。

私は2019年27期タブマネになりました。タブマネの事は知っていましたが、東北からの研修会への参加は日程調整や旅費等、ハードルが低くなく、遠い世界のエキスパート集団だと感じていました。しかし2期に分かれた開催は参加への道を開いてくれました。日中は講師先生方の熱い講義を通して目紛しい多文化共生のシャワーを浴び、夜は参加者皆さんとの楽しい交流を通じて、新たな気づきを得るという貴重な経験をしました。



前期と後期の研修の間の宿題は、地域の多文化共生の実践調査で、私はハンドアウトに書かれた項目の全ての担当課から話を聞き、そのおかげで弱みを見つけることができました。その後も市と協議を重ね、市は奥州市多文化共生推進検討委員会を設置しました。今年度は研修会で講師をして下さった田村太郎先生をアドバイザーをお願いして奥州市多文化共生防災プランを策定します。大変なプレッシャーですが、初代委員長の任を受ける事となりました。できる事しかできませんし、知ってる事しか知りませんが、タブマネの繋がりを大切にして出来る事を少しでも増やせたら、と思います。

<奥州市国際交流協会>

<https://oshu-ira.com/>

## ⑧ 名古屋市国際交流課交流係長 深尾英司

私がタブマネという言葉に出会ったのは、名古屋市でも一番外国籍の住民が多かった（当時）名古屋市中区のまちづくり担当の係長職に着任した時でした。その時には名古屋市中区の人口の1割が外国籍の方となっており、多文化共生が喫緊の課題となっていました。

何からしたらいいのかわからなかったため、色んな人に中区は外国人が多いですよって相談して回っていたら、とある職員の人から「タブマネってのがあって、前の職場で私は取得しましたよ。」と言われ、なんすかそれ？がタブマネとの出会いでした。

私は25期だったので、すでに先輩がめちゃくちゃいるっていうのに驚きました。「多文化共生ってそんな前から大事だったんだ、知らなかったー！」って思ったことも覚えています。

さて、今は国際交流課におり、今年度は多文化共生をメインとする業務ではなく、姉妹友好都市との交流事業がメイン業務としておりますが、昨年度は翻訳などの多言語情報発信を業務の一つとして担当していました。

名古屋市では英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語（繁体字）、ハンデル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語の8言語で情報発信しているのですが、多言語で発信できている行政情報は日本語の情報量と比べて圧倒的に情報量が少ない状況です。

でもマンパワー足りていないから、このまま人力だけで翻訳をしていたら行政情報の提供が間に合わないと痛感し、どうにか効率的に翻訳ができないものかとAI活用した行政文書翻訳を検討し、今年度からAI翻訳を試行的に導入しています。

全国1400強の自治体で似たような情報を発信しています。

ということは、きちんと行政用語の登録をし、それを活用してAIが似たような行政情報が翻訳できるようになり、その仕組みが全国の自治体に横展開できたのなら、全国の行政情報が一気に多言語化できて、日本語がまだ不自由な人も日本で暮らしやすくなるってことも強く意識してAI翻訳の事業構築を考えていました。

担当は変わりましたが、私の後任がシステムの検証もしながら、一般職員も活用できるようブラッシュアップしてくれています。

多文化共生の3つの壁「ことばの壁」、「制度の壁」、「こころの壁」の一つを新しい技術を活用して崩していきたいです。

役所の業務はどこにいても多文化共生の考え方が必要です。

少しでも外国人と関係があるのであれば、是非タブマネの研修を受講し、皆でよい日本にしていきましょう。





## ⑨ 公益財団法人京都市国際交流協会 木林愛美

タブマネ14期生、kokoka（ココカ）の木林愛美（あいみ）です。

公益財団法人京都市国際交流協会は1989年に設立、2006年度よりkokoka京都市国際交流会館の指定管理者となり、現在は約20名のスタッフで管理・運営を行っています。

私は中国天津市で3年間日本語教師として勤めた後、帰国し派遣社員などを経て2005年よりkokokaで勤務しています。もともと理数系で語学は苦手、海外にも全く興味を持っていなかった私が、不思議なご縁から言葉も全く通じない中国で外国人として暮らすことになりました。多くの方々に支えられたその時の経験が、今の職に導いてくれたように思います。

タブマネを受講した主な理由は、自分の視野を広げ経験値を上げたいと思ったからです。組織が大きい分、内で完結してしまいがちな状況に少しずつ疑問を持ち始めていた時期でもありました。

研修の10日間は、貴重な学びと仲間づくりの場となり、また協会のことを客観的に見る非常に良い機会となりました。大人になって、夜な夜なあんなに熱く語り合うことはもうないでしょうね。

今は総務で主に経理と指定管理関係、公益法人認定事務などを担当しています。

タブマネの皆さんに会う機会も減り少し寂しいですが、メールなどでいつも活発に様々な情報提供を頂き大変有り難く思っています。全国に仲間がいる、というのは本当に心強いです。これからもその大きな支えを励みに、地域に貢献していきたいと思います。

京都にお越しの際は、ぜひkokokaにお立ち寄りください！

<公益財団法人 京都市国際交流協会>

<https://www.kcif.or.jp/web/jp/>

## ⑩ 福知山市 財務部 資産活用課 公民連携係 係長 土田信広

私は、塾や中学・高校で約10年間働いた後、社会人枠で福知山市役所に採用されました。前職が英語教師であったからか、国際交流を所管するまちづくり推進課に配属され、平成25年度にタブマネ研修を受講しました。

入庁後数か月で、市の外国籍市民の状況も把握しつつタブマネ研修に参加し、他の行政や協会等の取組から、いわゆるイベント実施型の国際交流から外国籍市民の生活に密着した多文化共生への潮流や、外国文化の多様性を尊重することの大切さを痛感することができました。

平成26年度、多文化共生担当となり、留学生を対象とした生活支援講座等に取り組みましたが、行政職員の悲しさ、翌年事務分担が変わり移住促進担当となり、その後スポーツ担当を経て現在は資産活用課で、多文化共生にほとんど貢献できていません。

でも、行政職員になって初めて参加した研修で学んだことは、今も自分の基礎となっています。



例えば、現在の業務である廃校活用では、足立音衛門 里山ファクトリー(旧佐賀小学校)で、ジェンダーに関わらず、車いすの方も利用できる「ALL GENDER RESTROOM」を発見し、今日では、民間事業者でも当然のように多様性を重視した事業運営をされていると感じました。

私たち行政、協会等の皆さんも気を引き締めて、日々の業務に全力を尽くしていきましょう！

## ⑪ 東京都府中市 国際交流サロン DIVE コーディネーター 関谷昂

皆さんこんにちは、東京都の府中市で国際交流サロン DIVE のコーディネーターをしている関谷昂と申します。



東京外国語大学在学時代より、多文化多言語社会論のゼミに所属していたこともあり、2020年に府中の国際交流サロンがリニューアルする際に、コーディネーターとして就任いたしました。大学時代に概論は学んでいたものの、具体的な施策を進めていくうえで必要な知識と、日本全国で同じように活動している皆さんと情報の交換ができればと、タブマネの講習を受けました。

DIVE はまだまだ歴史の浅い施設ではありますが、府中に住む約 5000 人の外国人の方々との共生をどのように図っていくか、日々試行錯誤をしながら進めています。

活動の中で特に記憶に残っているのはワクチンの接種支援プロジェクトです。市役所をはじめ、市内の大学や企業、まちで活躍する様々なセクターの方々と協働で、日本語の理解にハードルのある外国人住民の方々のサポートをあらゆる側面で行っていました。



この協働を通して、外国人住民の方々だけでなく、まちに住む多くの人に、ワクチン接種に当たっての課題を共有し、解決に結びつけることができたと感じています。

今後は、東京外国語大学とも深い縁のある人間として、また府中のまちで活動する人間として、外国籍の人口数 2% というごくごく「普通」の市において多文化共生の事例を作り、日本中の多くの地域で活用をしていただけるような活動を作り出していければと、体制を含め確立していければと考えています。